

## 第 44 回歴史探訪の会ご報告

「須恵器のルーツ泉北丘陵と小谷城跡」を巡る

開催日平成 27 年 5 月 20 日

お話

泉北すえむら資料館 森村先生

堺ボランティア協会 土井・小川

華美芝居 柿沢 他

桜井神社 宮司

今から 1600 年前古墳時代に、中国に始まり朝鮮半島からの渡来人が百舌鳥古墳群に近い泉北丘陵で須恵器を大量に製作されました。

その製法技術や須恵器窯跡、第 61 号（復原）第 73 号窯跡を見学、登窯と呼ばれる地下式の窯を用いて焼いたので、1100 度以上の高温でしかも還元することで酸素を奪う為特徴的な色を出し、須恵器は（あながま）と呼ばれた。



### ■ 「泉北すえむら資料館」

須恵器を中心に展示第 1 室～第 3 室へと観覧することで古代から近世までの土器・陶磁器の移り変わりがわかります。陶邑窯跡群出土の須恵器の編年についても 5 世紀から 10 世紀迄の器種や形の変化を見ることが出来るように設けていました。

「須恵器とは」

- ①高い高温でしかも酸素の少ない状態で焼かれる為硬質で灰色を呈している
- ②技術は中国や朝鮮半島から伝えられた。
- ③古墳時代に始まり平安時代以降も作られ続け、土師器と共に長い間使われた。
- ④技術はロクロ、現在でも用いられている、回転台に粘土を乗せ回転させて形を整える。
- ⑤特徴は「あながま」焼成させる、丘陵の斜面を利用して長いトンネルに、日本になかった技術。

これらを詳しくユーモアを交えて森村先生に解説して頂きました。



### ■「桜井神社」

入り口が寺の山門、明治の神仏分離の名残らしい、その奥の拝殿は国宝（堺で唯一）境内に、もみの木が堺市保存樹木ほか、なら、むくろじもみ、やまもも、えのき、の樹木について宮司さん自ら、神社が拝殿と本殿を残し織田信長の根来攻めの際焼失した話や境内の樹木の話、祭の跡の鬼の面ほか奉納されている逸話を聞きました。





### ■「小谷城郷土館」

古くは13世紀（鎌倉時代）中頃城として使われていた堺の城跡で平氏一族の居城、その後南北朝の戦で南朝、織田信長の根来攻めで落城、その後も大阪夏の陣に参戦、幾多の激動をくぐり抜けた小谷城跡の資料館で、その後の小谷家が庄屋としてあとに残る資料館を設立、登録有形文化財として公開されています。ここでも須恵器資料館で説明された森村先生の奥さまの説明を聞きました。

（館内写真撮影禁止）



### ■「多治速比売神社」

室町時代の建造物で国の重要文化財で境内には十三の末社あり、これら合わせて荒山宮と呼ばれています。

神社周辺は荒山公園と名付けられ、緑に包まれ、特に春には梅林で1400本の梅が植林されています。本殿の向拝手挟は透かし彫りで、向かって右の右面に、全国でも唯一の「芭蕉にカマキリ」が掘られています。

境内に「福石社」があり、堺観光ボランティアの柿沢さま他2名による華美芝居（紙芝居）により福石神にまつわる昔話を身振り手振りを交えて熱演して頂きました。





